

徳島大学生物資源産業学部からの業務依頼報告

蔵本技術部門 研究開発支援グループ

今林 潔 (Kiyoshi Imabayashi)

1. はじめに

徳島大学生物資源産業学部は平成 28 年 4 月に新設された学部で、「1 次産業，食料，生命科学に関する幅広い知識と，生物資源の製品化，産業化に応用できる知識と技術を有し，国際的視野に立って，生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成する」ことを基本理念にしている。また，農学，工学，医学，栄養学及び薬学を融合させた生物資源の高度利用技術の開発並びに高機能・高付加価値農林水産物の開発，応用及び実用化に関する理論と実践を一体化した実学的教育を行い，生物資源の生産と応用に加えて，産業化について専門的な知識と技術も有し，1 次産業から製品開発販売に貢献できる人材の養成を目指している。

2. 概要

平成 30 年 6 月より本学生物資源産業学部農場で研究用オトギリソウの継続的な栽培（図 1）と栽培研究中であるチョウセンゴミシの収穫及び果実や蔓，根の分別解体（図 2）をした。

3. 内容

今年，本学生物資源産業学部の田中直伸准教授より個人的に本学生物資源産業学部農場で研究栽培中であるチョウセンゴミシ（マツブサ科）*Schisandra chinensis* (Turcz.) Baill. の収穫及び解体（図 2）とオトギリソウ（オトギリソウ科）*Hypericum erectum* Thunb. の継続的な研究栽培（図 1）の依頼を受けた。田中准教授は本学薬学部生薬学研究室を併任されており，生薬学研究室の柏田教授が本学薬用植物園園長である関係性から，本学生物資源産業学部から本学技術支援部蔵本技術部門に筆者あての業務依頼を出してもらうことになった。田中准教授は天然物の有効利用を目指した医薬品素材や機能性食品素

材の開発研究をされている。本学生物資源産業学部農場は，約 10 万 m² という広大な敷地を有しており，そこには圃場や果樹園の他に，気温等が管理された屋内の閉鎖空間で作物栽培を行う植物工場や，ブタの品種改良等行う研究室があり，先進的な研究に取り組んでいる。



図 1 栽培を開始したオトギリソウ 6月



図 2 チョウセンゴミシの収穫 7月

4. まとめ

本学生物資源産業学部農場は，筆者の職場である薬学部附属薬用植物園まで約5kmで，車での所要時間は約20分である。近年，国内製薬会社や農学系学部は，中国等から輸入している薬用植物の国内生産を目指し，凌ぎを削っている。本学も生物資源産業学部が新設され，筆者も微力ではあるが，協力したいと思っている。